100 誌上発表

近年の北海道に於ける明治女医史研究と新知見

宮下　舜一
北海道医史学研究会

明治期の北海道に於ては，これまで荻野吟子以外の女医の存在は全く知られていなかった．最近10年前に至って，医術試験合格7番目の女医間宮八重の来道が判明し，その後更に3名の女医の活動が新たに確認され，詳細な調査報告が相次いだ．今回はこれらの研究を通じて検証された二つの医史学的重要事項について報告したい．

(1) 北海道の女医第1号，米国女性宣教医　F. ハミスファー（Florence N. Hamisfer）

三県時代の函館では，外人女性宣教師による女子教育と共に医療宣教活動が次第に一般市民にも及ぶようになった．これら外人女性の医療担当資格を巡る一連の調査史料から，医師免許資格（米国医学校卒業証書）が確認された米女性宣教医ハミスファー女史に対して，函館市中での医療活動が認可されたという事実が判明した．女史は米国カンザス州の出身で，荻野吟子来道より10年以上早い明治16年末，ミッションスクール（後の遺愛学院）の校医兼宣教師として函館に着任している．

幕末から明治の末までに来日した外国人の医師資格者は男女計158名を数えるが、そのうち記録に残る女性医師はわずか9名（全て米国ミッション派遣宣教医）であり，明治16年以前に来日した外国人女医は存在しない事も判明した．2年9ヶ月の短い期間ではあるが，地元に密着した医療活動を精力的に行なった（種々傍証資料による知見）ハミスファー女史の存在は，北海道の女医第1号にとどまらず，本邦で活動した最初の外人女医として女医史の第1章に補遺すべき人物である．女史は明治19年9月，より必要性の高い朝鮮での宣教医療活動を希望して函館を去った．

(2)「従来開業免許」女医の存在と医療活動の実証・『本道3番目の女医三野嘉寿井』

明治32年の春，札幌区内に「整骨科」（院主 整骨科医 三野）を標榜して開業した小医院が，数年後には，新たに養嗣子を院長とする「内外科・整骨科」三野病院となり，区内有数の私立病院として発展する．創立時の院主である整骨科医師が女性であり，来道3番目の女医（道庁衛生課技官 三野昌平氏夫人）「三野嘉寿井」女史である．更にその医歴調査から，従来の医史には記録されていない「従来開業資格免許」による公認女性医師の存在が初めて確認実証された．

女医三野嘉寿井は安政5年，能登鹿島郡田鶴浜村（現，石川県七尾市）の医家三野武助の長女として生まれた．一人娘嘉寿井は幼時から整骨専門医である父の助手をつとめ，熱心な父の指導により彼女の医療技術は急速に進歩を遂げたようである．その実力は父の死後立派に医業を継承し，若くして女性では稀な県庁認定の開業仮免許（整骨科限定）を取得した事で証明される．

明治17年の医籍編成の実施に際しては従来開業医も一律に国家医籍に登録され，内務省から新免許証が交付された．新制度発足時全国医師総数は40,880名で，その大半を占める従来開業免許医師35,319名（86.4%）の中で女性医師の有無については記録が見られない．

種々資料検索を試みた結果，明治22年の時点で，58名以上の該当女医の存在が推定出来る．従って明治17年には，荻野吟子より1年先んじて，推定60名以上の従来開業免許による公認女医グループが誕生した事になる．

［明治30年］女医総数82名（試験及第49名），開業免許女医33名．
［明治42年］ほぼ正確な全国医籍録名簿から，21名の従来開業資格免許女医の現存が確認される．
［大正元年］従来開業免許女医14名（女医の総数175）．［大正5年］7名（女医総数314）．
［大正10年］3名（女医数425）．［大正15年］0名（女医数904）

札幌での女医三野嘉寿井は，発展した三野病院に於ても整骨科を担当する勤務医として晩年まで活動し，従来開業免許による女医の医療活動を実証した功労者である．大正9年3月，札幌の地で逝去，享年62歳．